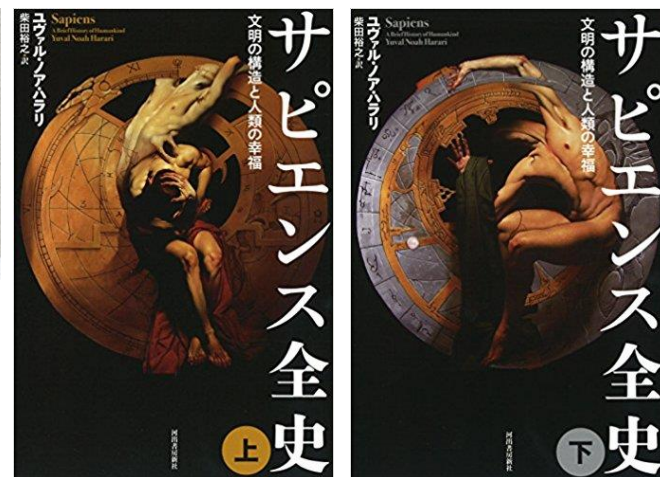


## 「サピエンス全史～文明の構造と人類の幸福」

## &lt;著者紹介:ユヴァル・ノア・ハラリ&gt;

1976年生まれのイスラエル人歴史学者。  
オックスフォード大学で中世史、軍事史を専攻して博士号を取得、現在エルサレムのヘブライ大学で歴史学を教えている。  
軍事史や中世騎士文化についての3冊の著書がある。  
オンライン上での無料講義も行ない、多くの受講者を獲得している。



## &lt;目次&gt;

## 【上】267ページ

## ■ 第1部 認知革命

- 第1章 唯一生き延びた人類種
- 第2章 虚構が協力を可能にした
- 第3章 狩猟採集民の豊かな暮らし
- 第4章 史上最も危険な種

## ■ 第2部 農業革命

- 第5章 農耕がもたらした繁栄と悲劇
- 第6章 神話による社会の拡大
- 第7章 書記体系の発明
- 第8章 想像上のヒエラルキーと差別

## ■ 第3部 人類の統一

- 第9章 統一へ向かう世界
- 第10章 最強の征服者、貨幣
- 第11章 グローバル化を進める帝国のビジョン

## 【下】294ページ

## ■ 第3部 人類の統一～続き

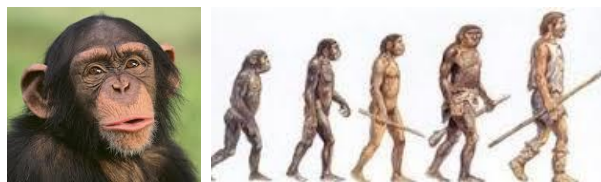
- 第12章 宗教という超人間的秩序
- 第13章 歴史の必然と謎めいた選択

## ■ 第4部 科学革命

- 第14章 無知の発見と近代科学の成立
- 第15章 科学と帝国の融合
- 第16章 拡大するパイという資本主義のマジック
- 第17章 産業の推進力
- 第18章 国家と市場経済がもたらした世界平和
- 第19章 文明は人間を幸福にしたのか
- 第20章 超ホモ・サピエンスの時代へ

## &lt;歴史年表&gt;

- ・135億年前: ビッグバン、物質とエネルギーが現れる⇒ **物理的・化学的現象の始まり**
- ・45億年前: 地球誕生
- ・38億年前: 有機体(生命)が出現⇒ **生物学的現象の始まり**
- ・600万年前: 人とチンパンジーが枝分かれ
- ・250万年前: アフリカで**ホモ(ヒト)属**が進化、最初の石器
- ・200万年前: 人類がアフリカ大陸からユーラシア大陸へ広がる、異なる人類種が進化
- ・50万年前: ヨーロッパと中東で**ネアンデルタール人**が進化
- ・30万年前: 火が日常的に使われるようになる
- ・20万年前: 東アフリカで**ホモ・サピエンス**が進化
- ・7万年前: **認知革命**が起こる、虚構の言語が出現⇒ **歴史的現象の始まり**  
ホモ・サピエンスがアフリカ大陸の外へと広がる
- ・45,000年前: ホモ・サピエンスがオーストラリア大陸に住みつくと⇒ 豪大陸の**大型動物相が絶滅**
- ・30,000年前: **ネアンデルタール人が絶滅**
- ・16,000年前: ホモ・サピエンスがアメリカ大陸に住みつくと⇒ 米大陸の大型動物相が絶滅
- ・13,000年前: **ホモ・フローレシエンシスが絶滅**、**ホモ・サピエンス**が生き残った**唯一の人類種**
- ・12,000年前: **農業革命**が起こる、植物の栽培化と動物の家畜化、永続的な定住
- ・5,000年前: 最初の**王国**、**書記体系**、**貨幣**、**多神教**
- ・4,250年前: 最初の**帝国**(サルゴンのアッカド帝国)
- ・2,500年前: **硬貨**の発明(普遍的な貨幣)、ペルシャ帝国(普遍的な政治秩序)、インドの**仏教**
- ・2,000年前: 中国の漢帝国、地中海のローマ帝国、**キリスト教**
- ・1,400年前: **イスラム教**
- ・500年前: **科学革命**が起こる、ヨーロッパ人がアメリカ大陸と各海洋を征服し始める、**資本主義**が台頭
- ・200年前: **産業革命**が起こる、家族とコミュニティが**国家と市場**に取って代わられる、**動植物の大規模な絶滅**
- ・今日: 人類が地球の境界を超越、核兵器が人類の生存危機に、生物が人為的に操作され作られる(GMO)
- ・未来: GMOが生命の基本原則となるか? ホモ・サピエンスが超人たちにとって代わられるか?



## <私にとっての「目から鱗」>

- ・なぜ多くのホモ(ヒト)属の中でサピエンスだけが生き残ったのか？  
⇒ ∵ 体格や脳の大きさではネアンデルタール人の方が勝っていたのに、**虚構(フィクション)**を信じ、言葉で伝えることで仲間と協力することを可能とした“**認知革命**”が起こったから。
- ・サピエンスは他のホモ属と交雑することなく、それらと戦って絶滅させ、また東アフリカから地球上に拡がっていく中で、大型動物相を次々と絶滅させた⇒ サピエンスは**最も凶暴な種**であったが故に食物連鎖の頂点に立った。
- ・人類はその発展の過程で大きな3つの波(①農業革命 ②産業革命 ③情報革命)を起こした(byトフラー)と理解していたが、著者はその“**農業革命**”は狩猟採取時代より真に豊かとは言えず、争い事や気象災害の悲劇をもたらし、王国の誕生は神話や書記体系(文字)を生んだが、**格差も拡大**させた、とする。
- ・直近の国際情勢は、ブレグジットやトランプ政権誕生など、統合(グローバル化)とは逆の動きのように見えるが、筆者は長期(5,000年)の視点で、着実に「**人類の統一**」に向かって進み続ける」と断言。  
\* その証拠として、地球上に存在する別個の人間社会の数の減少を挙げている。  
\* またそれをもたらした最大の征服者と言える存在が“**貨幣**”  
\* グローバル化を強力に推進したのが、ヨーロッパの“**帝国主義**”
- ・宗教は現在差別や対立・テロの根源のように見なされる事が多いが、これも人類を統一する3つの要素の一つ。  
\* “**宗教**”は社会秩序の安定をもたらす、超人間的な秩序の信奉に基づく、人間の規範と価値観の制度。  
\* 自由主義や共産主義、資本主義といったイデオロギーと称するものも、広義の宗教。
- ・過去500年の驚異的な発展(人口:14倍、生産量:240倍、エネルギー消費量:115倍)は“**科学革命**”のお陰。  
\* “**無知**”の発見が近代科学をスタートさせ、観察と数学をベースにした理論を使って新しいテクノロジーを獲得  
⇒ ヨーロッパの帝国主義と融合して征服(統一)が加速、投資家や保険が生まれ**資本主義**が発展(限界も)  
⇒ 兵器も飛躍的に進歩し、究極の原子爆弾も誕生⇒ これが「**原子の平和(パクス・アトミカ)**」をもたらした？
- ・文明は人間を幸福にしたか？(経済の指数的発展が物質的豊かさをもたらしたが・・・)  
⇒ 幸福は客観的条件(富や健康)と主観的な期待との相関関係によって決まる／生化学物質による快感？
- ・バイオテクノロジーの進化は間もなくシンギュラリティを超え“**超ホモサピエンス**”の時代を迎える。  
⇒ ギルガメシュ(非死)、フランケンシュタイン、サイバー空間の生命体、etc.の時代の**幸福とは？**

## <筆者の問題意識>

不幸にも、サピエンスによる地球支配はこれまで、私たちが誇れるようなものをほとんど生み出していない。私たちは環境を征服し、食物の生産量を増やし、都市を築き、帝国を打ち立て、広大な交易ネットワークを作りあげた。だが、世の中の苦しみの量を減らしただろうか？ 人間の力は再三にわたって大幅に増したが、個々のサピエンスの幸福は必ずしも増進しなかったし、他の動物たちにはたいてい甚大な災禍を招いた。

ギルガメシュ・プロジェクトは科学の大黒柱だ。ギルガメシュを止めるのが不可能である以上、唯一私たちに試みられるのは、科学が進もうとしている方向に影響を与えることだ。私たちが自分の欲望を操作できるようになる日は近いかも知れないので、ひょっとすると、私たちが直面している真の疑問は、

「私たちは何になりたいのか？」ではなく、「私たちは何を望みたいのか？」かもしれない。

## <著名人の書評>

■ マーク・ザッカーバーグ：フェイスブック創業者

「この世の謎を解き明かしてくれる知的冒険の書だ」

■ ビル・ゲイツ：マイクロソフト創業者

「歴史や人類の未来について興味のあるあらゆる人に薦めたい」

■ 山極 壽一：京都大学総長、人類学者、霊長類学者

「進化と文明の歴史を幸福の視点から問い直す」

■ 山形 浩生：評論家、翻訳家

「妄想力こそが人類の礎！ 虚構の上に築かれた人間の壮大な文明の歴史を描ききる！」